

高齢者に快適な生活用品のデザイン開発

矢野 強* 宮田昌俊 安藤敏夫 長谷川恵子 今西千恵子

Design of Tableware for the Aged

Tsuyoshi YANO, Masatoshi MIYATA, Toshio ANDO,
Keiko HASEGAWA and Chieko IMANISHI

日本の高齢化は急激に加速し、世界に先駆けて65歳以上の高齢者が2020年には25%に達すると予想されている。このような高齢化社会を迎えるにあたり、健康で豊かな長寿・福祉社会の実現が求められている。そこで、高齢者の感覚や身体特性に合った快適性や利便性のある生活用品の開発を目的に本年度はスプーンとフォークの使用を前提に料理を取りやすく、すくいやすくした食器と仕事を離れ、余暇時間が増加している高齢者にとって生き甲斐や楽しみである趣味に注目し、それらに関連した製品についてデザイン開発を行った。

デザインは、高齢者に使いやすく、親しみやすい和風感覚で形状と絵柄を検討し、白磁素地を用い、圧力鋳造成形で角皿、角鉢、仕切り付の丸皿、丸鉢、角皿、長角皿と飯茶碗、蒸し茶碗、コーヒーカップについて試作を行った。また、趣味用品として囲碁をテーマに取り上げ囲碁づくめの形状と絵柄のコーヒーセット、灰皿等を有色珐瑯素地を用い、手ろくろとたたらずで試作した。

1. はじめに

高齢化社会が急速に進む中、高齢者を対象とした商品市場は、今後、急速に多様化し拡大すると予想されている。高齢者向け商品の開発は介護用品を含め、各所で開発されているというものの、市場にはまだ品目も少なく、価格も一般商品に比べ割高となりやすいのが現状である。本研究では、住宅で普通に生活する高齢者を対象に「誰にでも使いやすい商品」をコンセプトに商品開発を行った。健康な高齢者であっても身体特性や感覚など身体機能が、知らず知らずの間に僅かづつ衰えてくる。本年度は、そのような高齢者を対象とした食器を検討し、スプーンやフォークが使いやすい和風の食器についてデザインと試作を行った。また、仕事を離れ、余暇時間が増加している高齢者にとって、生き甲斐や楽しみとなる趣味に注目し、それらの趣味に関連した品についてデザインと試作を行った。

2. デザイン開発

2.1 高齢者向け食器

2.1.1 デザインコンセプト

食事時、指先の動きの衰えから箸に代えて、スプーンやフォークを使用する方が食べやすい場合が多くなる。また食事内容が洋風化し、シチューやスパゲティ等スプーンやフォークを使って食べる料理も多くある。これらの事柄からスプーンやフォークを使用する食事に対応した形状で高齢者に親しみやすい和風の食器をデザインした。

2.1.2 形状デザインと試作

デザインコンセプトに基づき、ペーパーデザインを行い、試作を行った。

試作は、白磁素地を使用し、圧力鋳造成形した。素焼き後、下絵付してガス炉で1280℃の還元焼成をした。表1に試作品の寸法を示す。

加飾は、手描きによる下絵付けとした。高齢者に使いやすく、親しみやすい和風感覚を主調にして絵柄は、亀甲文様、丸文様や結び文様の中に、明暗2種類の呉須を使用して麻の葉などの刺し子模様を描いた。また、明るい色調ですいかと水仙の植物柄を描いた。

ア. 角皿、角鉢 (3種類)

蒲鉾を逆さまにしたような形状にすることにより、集めやすく、すくいやすい工夫をした。底を丸く落として半円形にしたため、食物が集めやすく、底に集めた食物は両端の切り立った側面ですくい取れる。また、金属製のスプーンやフォークが当たっても欠けないように食器の縁や口縁を厚く、幅を広くした。縁の幅を広くすることにより食器を手で支えやすくなった。(写真1)

イ. 仕切り付き丸皿、丸鉢 (5種類)

皿や鉢の中央に凸状の堤を作った。この凸状の堤を作ることで2種類の食物が混ざらないように盛り付けでき、1器2様の使い方ができる。また、食器の縁にスプーンを掛けて置いた場合、食器の中にスプーンが滑り落ちるのを防止でき、使いやすい。(写真2～3)

* 現愛知青少年公園協会

表1 試作品の寸法

品名	寸法 (mm)			
	φ	W	D	H
角皿		153	153	30
角鉢・大		153	153	53
角鉢・小		103	103	33
仕切り付丸皿・大	235			26
〃 丸皿・中	190			28
〃 丸皿・小	135			27
仕切り付丸鉢・大	188			45
〃 丸鉢・小	133			36
仕切り付角皿・大		193	193	27
仕切り付長角皿・大		230	125	27
〃 長角皿・中		193	104	27
〃 浅皿		193	104	20
〃 深皿		188	104	33
飯茶碗	122			49
コーヒーカップ	86			67

ウ. 仕切り付き角皿、長角皿（4種類）

イ. の丸皿と同様の意図で和皿をデザインした。

（写真4～5）

エ. 湯呑、蒸し茶碗、コーヒークップ、飯茶碗

湯呑の形は背を低く、胴を太くし、ハマを大きくして安定性を重視した。また碗の口辺を厚く玉縁にして強度を持たせた。この湯呑を基本形にして蓋をつけて蒸し茶碗に、また取っ手をつけてコーヒークップにした。飯茶碗も湯呑同様、安定性を重視し、手に持ちやすい小振りな形状とした。（写真6～7）

写真8は下絵付けによる水仙柄の食器、写真9は呉須による結び紋柄の食器である。

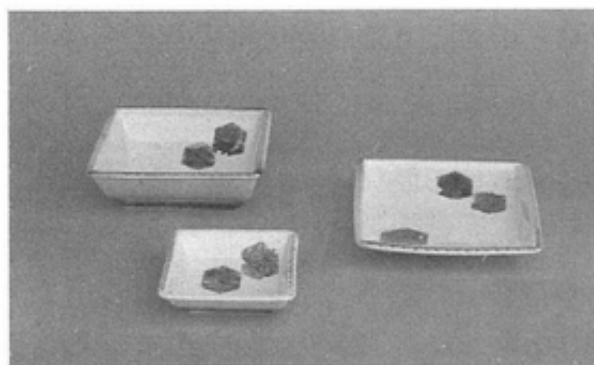


写真1

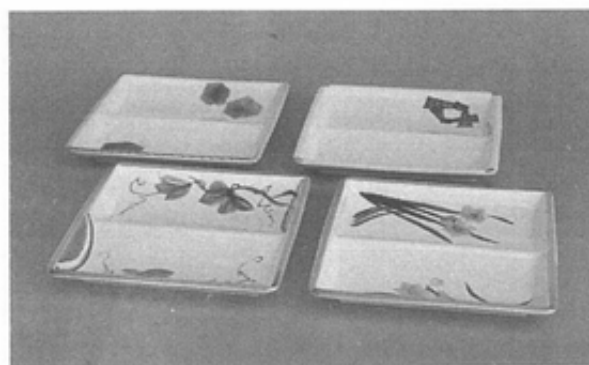


写真4

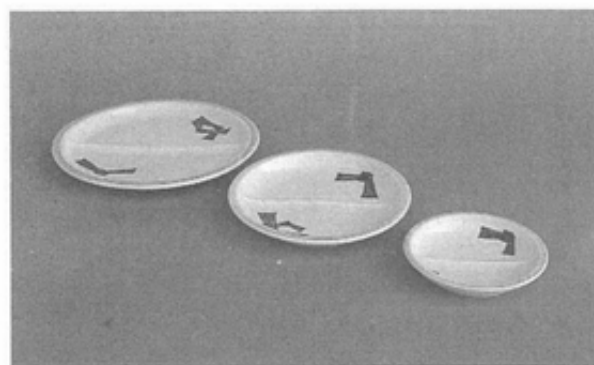


写真2

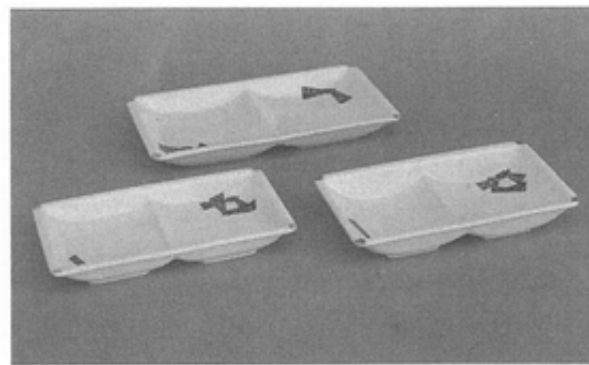


写真5

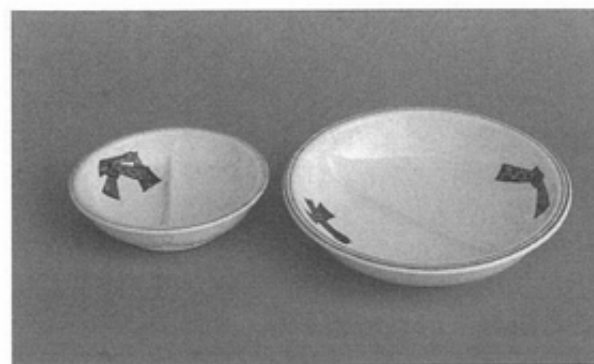


写真3



写真6



写真7



写真8



写真9

2.2 趣味の友

2.2.1 デザインコンセプト

高齢になると、仕事を離れ、自由な時間が多くなり、生き甲斐としての趣味は重要な課題である。趣味がより高まることにより、自分の趣味を満足させる雰囲気作りの道具等、趣味自体の他、周りの商品にも関心が持たれてくる。今回、種々の趣味の中から囲碁をテーマに選定した。囲碁は高齢者が集う福祉施設などで、多くの人が楽しんでいる。

囲碁の対戦は当然、楽しいが、前後の時間も楽しみのひとつで、くつろいだ時間に、自分愛用の器でお茶やコーヒーを飲む光景を想定した「趣味の友」となるギフト用品をデザイン開発した。

囲碁に関する商品は湯呑やカップ、灰皿の商品があるが、これらは、皿やカップ等に上絵付けを施した単品の記念品やしるし物が多い。今回は自分で楽しんだり、友人に

プレゼントできるような趣味性の高い製品をデザインして試作を行った。

2.2.2 形状デザインと試作

ア. 碁盤形トレイ (角形、長方形、丸形)

碁盤を形取った足 (高台) 付きのトレイで碁石の白と黒をイメージし、トレイの内側は乳白釉や黒天目釉を施釉し、他の部分は土味を生かすため無釉にした。黒天目釉の表面にサンドブラスト加工して光沢部分と艶消し部分を作り、碁譜の模様とした。コーヒーセットや菓子皿等を乗せるトレイとして使用する。この足付きトレイは、日本間の畳の上に置くと収まりがよい。(写真10、11)

イ. コーヒーセット (写真12)

コーヒーカップ

取っ手を大きく、座りのよい形のコーヒーカップを意図した。下絵呉須による碁譜の模様が映えるよう有色珐瑯素地の上に白化粧土を施した。

砂糖入れ

碁石 (碁石入) を小型化して砂糖入れとした。碁石のイメージを白と黒でとらえ、蓋を白色、身を黒色にした。

クリーマー

碁石をイメージした形状で、黒色のミルク入れ。中に入るミルクの白色とコントラストをつけるため、黒にした。

ウ. 菓子皿

皿の中に白化粧土を施し、下絵呉須で碁譜の模様を手描きした。

エ. 灰皿 (四角形、丸形)

碁盤の形をした灰皿。碁盤形トレイと同様、足 (高台) 付きにして灰皿の中底に白化粧土をして碁譜の模様を下絵呉須で描き、その上に碁石を乗せ、火消し用のスポットにした。他の部分は土味を生かして無釉にした。(写真13)

試作は、有色珐瑯素地を使用して、ろくろやたたらで手作り成形し、白化粧土や下絵呉須、サンドブラスト加工により加飾して、ガス炉で1275℃の還元焼成をした。表2に試作品の寸法を示す。

表2 試作品の寸法

品 名	寸 法 (mm)			
	φ	W	D	H
トレイ四角		275	275	50
〃 長角		355	220	50
〃 丸	250			50
コーヒーカップ	80			60
〃 ソーサー	120			15
砂糖入れ	75(95)			70
クリーマー	40(70)			50
小皿	130			30
灰皿 四角		135	135	50
〃 丸	155			45



写真10

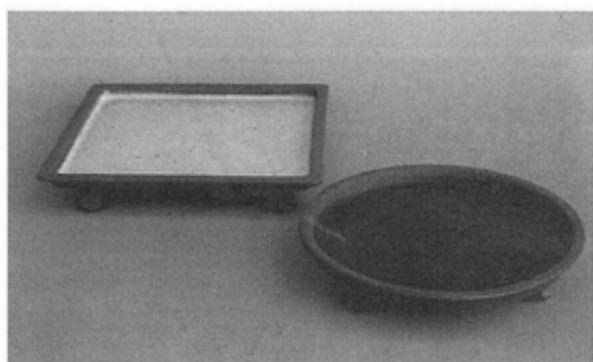


写真11



写真12

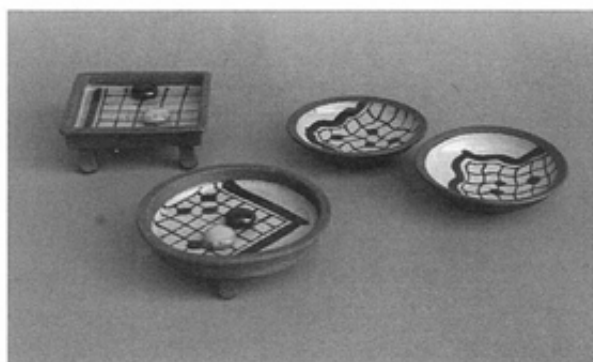


写真13

3. まとめ

加齢に伴う身体機能の衰えをカバーする高齢者向け食器と趣味関連品として囲碁をテーマにした製品をデザインした。

(1) 使いやすい食器をコンセプトにデザインの展開を図った。食器の縁を厚く、幅を広くし、スプーン等が強く当たっても割れないように強度を持たせる一方、器の中央に凸状の堤を作り、また、器の底に曲面をつけ、すくいやすい形状を意図した。

試作は、白磁素地を使用して圧力鋳込成形により角皿、角鉢、仕切り付丸皿、丸鉢、角皿、長角皿と飯茶碗、蒸し茶碗、コーヒーカップの9品目を作製した。

加飾は、和風感覚を主調に手描きによる下絵付けとした。高齢者に使いやすく、親しみやすくするため、絵柄は亀甲文様や丸文様、結び文様とし、明暗2種類の呉須を使用し、麻の葉などの刺し子模様と明るい色調のすいかと水仙の植物柄を描いた。

(2) 高齢者の趣味に合わせ、より趣味を楽しむために囲碁をテーマに周辺の小物を含めて趣味性の高い食器等をデザインした。

試作は、炻器素地を使用してろくろとたたね作り成形により、トレイ、コーヒーカップ、砂糖入れ、クリーマー、小皿、灰皿の6品目を作製した。

加飾は囲碁のイメージを碁石の白と黒でとらえ、黒釉と白釉でコントラストをつけた。また、黒釉を施した表面にサンドブラストで加工して光沢部分と艶消し部分を作り、棋譜の模様をつけた。